



魅力ある川の街がリバーウォークによって実現した

サンアントニオにも川があります。世界の大きな川と比べると、小さな川です。一見したところ、曲がりくねった、ただの小さな川にしか見えません。

小さな川が、街の発展に巨大な影響を及ぼす

まるで松川のようなこの河畔は、「サンアントニオ・リバーウォーク」と呼ばれています。ところが、この小さな川が、サンアントニオの発展に巨大な影響を及ぼして来ました。実際、この街の存在は、この川に由来しています。今日、サンアントニオは総面積が480平方キロ、人口100万を越す都市ですが、この川が市の中核とみなされています。市の中心部を曲がって流れる

サンアントニオ・リバーウォーク

神通川直線化一〇〇年記念、「川と街づくり国際フォーラム」開催から5年。「夢の神通回廊」プロジェクト実現に向け、リチャード・ハード氏の熱いメッセージを連載します。



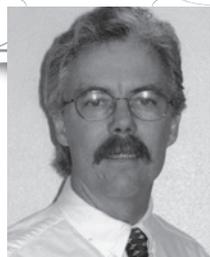
ヒューマンスケールな設計、商業的であり、自然がある

San Antonio River Walk
サンアントニオ・リバーウォーク

川の街 誕生物語

1

アメリカ・テキサス州 サンアントニオ市
公園管理者 リチャード・ハード氏



Richard Hurd

テキサス大学で植物学学士号取得。テキサスA&M大学で鑑賞園芸学修士号取得。1981年以降、サン・アントニオ市公園・遊園課に勤務。'81年から'98まで、サン・アントニオリバーウォーク、市洪水対策の管理責任をとる河川管理監督官であった。'98年よりリバーウォーク、植物園などを含む公園全体の維持管理責任をとる公園管理者。



ロマンチックな雰囲気。平板な街に、レリーフのような深みを与えてくれる

歴史

サンアントニオ川 河畔を彩る

It is a Planning and developmental Success by any Standard.

サンアントニオの発展は正に、計画と開発の賜物です。リバーウォークの成功を理解するためには、この街の歴史を理解することが肝要です。まず、サンアントニオがどこに位置するか見てください。



サンアントニオ

サンアントニオは、アメリカ南部のテキサス州にあります。メキシコ湾からサンアントニオ、この辺りにあります。湾から北へ260 kmの所に位置しております。メキシコの国境から

もさほど離れていません。冬暖かく、夏は非常に暑いです。降水量は一年で700mmです。メキシコ湾からの暖かい空気が、北からの冷たい空気とぶつかって、雨が春と秋に降ります。時々、雷雨や大雨になることもあります。

次は歴史です。考古学の調査によりすると、人々はサンアントニオ川河畔に、何千年も前から住んでおり、それは豊富な水と、野生生物のお陰でした。そして、アラモなどの伝道本部が、上流に造られるようになりました。乾燥した気候にたけたスペイン人は、川の進路を変え、灌漑用に石造りの用水路網を張り巡らせました。こうした水路が、数百年に渡って、サンアントニオに水を供給することになりました。

商業地帯が川の 大湾曲部に発展

River
City

街が大きくなる中で、川は多くの街のニーズに応えました。川の両側には、製粉所、ビールの醸造所、浴場などが建てられていった



のです。

1880年代までに、街は急激に大きくなっていき、商業地域は主に、大湾曲部として知られる、川のまわりに発展し、それが今日の街の中心になっています。

では、川の全体の流れを見てく
ださい。この辺に上流があつて、
だんだん水が流れてきます。そし
てこのところで非常に大きく曲
がっていきます。これが大湾曲部
と呼ばれているところです。アラ
モの砦はこの辺にあります。商業
地域は、ちょうど湾曲部の中央に
あたるところに発展しています。

問題は、洪水と悪化 する川の外観

River

問題の洪水、そして、悪化する



森の中を小川が流れ、カフェやレストランが並び、街の中心なのに、都市から離れた田舎に在るような気分

川の外観から、1900年代初期
に論争が起こり、河川美化への提
案が多く出されました。そして、
水路の壁が数ブロックにわたって
作られました。1920年に完了
した土木調査では、大災害を回避
するためには、大規模な洪水対策
が必要だと指摘していました。市
はその提案を実施しましたが、も
う、手遅れでした。

1921年9月9日、大洪水
が市の中心部を襲いました。その
ピークには、1.6平方kmの市の中心
部の4分の3が、3〜3.5mの浸水

に遭いました。
やっと水が引いた時には、50人
もの人が亡くなっていました。
家屋等への被害は、12億円にも
のびりました。

一時期、1500人の兵士が、
治安維持のために、街をパトロー
ルしました。

この洪水のあと、市民が将来の
災害防止にむけ、すぐ対策をとる
よう叫び声をあげたことから、3
つの緊急対策案がだされました。

第一の提案は、上流に貯水ダム
をつくることで、オルモスダムが

1926年に完成しました。通常、ダムに水はなく、大雨になると水がたまります。雨が止んだ後は、ダムの水が徐々に放流されます。今日、以前の洪水地域には競技場が建っています。このダムの後のところですね。そこは、雨が降ったときだけ水がたまります。そして、そこにはダメージが起きることあります。

第2の改善策は 馳越線工事と同じ

River
City

第2の提案は、湾曲部の両端を結ぶバイパス水路を造る、また蛇行部を直線化することで、洪水の水を抵抗なくまっすぐに流すということでした。これは富山で一〇〇年前に行われた、神通川直

水路の川底のほうが低いことから、湾曲部の下のはしから水があふれていきます。これがバイパスの水路です。そして大湾曲部はこちら。それが切り離されたわけです。そして、ここには洪水の水が流れ、湾曲部の方には流れないように、バイパス水路が作られました。第3の提案は、湾曲部を取り除き、暗渠にして排水路にするというものでした。この提案は、洪水対策と同じぐらい、論議を引き起こしました。

これは、湾曲部の水の流れを変えて、舗装するという計画でした。しかし、サンアントニオ保全協会は、川の可能性を信じ、これまで保存につとめてきていました。そうした保存の努力に、地元の建築家ロバート・ハグマンが注目し、彼のインプットが将来のリバーウォークの計画につながっていったのです。④

線化工事と全く同じものです。すると、洪水の水がバイパスの方へ流され、湾曲部には流れていかないわけです。

こうして、この真つ直ぐの川筋が主流になり、湾曲部分はそれから切り離されたわけです。松川が誕生したストーリーと、全く同じというのも、不思議な縁ですね。

1926年、建設はバイパス水路から始まりました。ご覧のように水路はビルの間で作られ、そのため建設は非常に困難を極めました。

完成したコンクリートの固い印象を柔らげるため、水路の両側に芝生が植えられました。スライドの右下に見えますように、バイパス



バイパス水路が、ビルの間で作られた

街の真ん中のリゾート地にいるみたいに、心を和ませてくれるリバーウォーク。魅力的で、静か、ユニーク、清潔で緑豊かな雰囲気

